



玉結小梯

三





源氏物語玉乃小櫛三の巻

改免正一より年立付圖

桐壺帝
御在位

	き	了	迄
一 年	源氏君生れあり		
二 年	桐壺更衣とまき給あり		
三 年	桐壺更衣とせあり		
四 年	一のふ立坊 後小朱雀院とすは是也		
五 年			
六 年			
七 年	源氏君成すあり		
八 年			

○玉乃小櫛三

一〇



源氏君
正三位

み毛

十月
朱雀院
行幸

紫 若

十月朱雀院行幸

藤壺女御孫姪

紫上十弟をく

三月源氏
ひさ

花 摘 末

春

朱雀院行幸

源氏
ひさ

十八

顔夕

十月

夏

蝉空

夏

七

源氏君
任中

木 帚

夏

源氏君任官中将

十

が

源氏君元服

玉づくは君今年生れあふり夕顔を小

九

十

十一

十二

三十

四十

五十

六十

○玉づくは

○二

原氏君
右大臣

玉		親	節	雲	壽
秋 玉著君御胤	春 玉著君上京	冬 九月	冬	春 原氏女院加へて 世孫女御事也七	冬
め		空		在	
八月 三條院へ遷り	秋 夕方君任侍從	原氏君任右大臣		夏 夕方君元服	梅壘 女御為中宮 秋 中宮
卅五	卅四	卅三		卅二	

○玉著をり三

田

冷泉院
佛立位

原氏君
内大臣

風	松	合	法	皇	号	生
秋	秋 明石院君三 年於り	三月	春 前女入内梅 子也 後秋中宮 中宮也	秋	四月 原氏 君未指院 君 也	原氏君 侍八溝
志		く		片		在
六條 山鳥取加へて 也		原氏君任内大臣 三月 明石院君 生れ也		朱雀院 侍讓位 今上 东宮に 立也		十月 原氏君 八溝を 初也
卅一		十三		卅九		

善君
竹境
中将

ふ

か
く
か

善君十四歳
竹境
官八位

此是竹間小原氏君如く是は

ふ
か

善君十四歳
竹境
秋任右中將

善君
十四歳
十五
十六

〇玉竹さし三

〇七

雲

幻

法
法

霧
夕

虫
鈴

春
春

秋
春

冬
秋
秋
夏

紫上如く是は

五十二

五十一

五十

善長
三位宰相

け

善長御より

か

善長宰相中納言
より

ぬみ

善長三位宰相より

中納言

正月

善長宰相中納言

同善長より

善長宰相より
善長宰相中納言より

十七

十八

十九

二十

廿一

廿二

善長
中納言

え

夕善長御より
紅梅君御より
善長御より

夕善長御より
善長中納言より

白文
善長御より
善長御より

善長
権大納言
右大臣

紅梅

宿本

夏
廿二
古事

浮舟
廿二

夕善長御より
善長御より

二月善長御より
権大納言右大臣

四月

推本

二月
秋善長御より
中納言

夏

秋白文より
善長御より
善長御より

早蕨

正月
二月善長御より
白文の二條御より

廿四

廿五

下は初めさへ入る者も夕暮しくつゝは^ハぢむりといひ一次の
事也三月とすしとすバ一甲の時かかしてその日事也三日月ご
ろはうしぬおぎ出て系おのかりゆひその秋御殿信まで志進おえ
がりつひあひ十月ふ云條院よりうり位あひてその年事善乃
りままで居しりこは原氏君五甲をとりめは是の末と同年は
善しゆは信抄の従ふ此を末の年をとりめは是乃末の年
りしてその年を原氏君五甲をとりそは原氏君は年希本を
を十ふといふ決りおうごへ来てさとりめは是末也此は信抄をげ是
の末也此はといはるし此卷は末をとりめは是乃の年とそ
取らといひきむがごとくして原氏君は^ト齡も是く一年もあひあつし

此を末とすはちをとりめは是乃末と同年はつてゆきしその
よりハ下おらしつゝは又一説よりハをとりめは是末とげ
是は末と同年りして原氏君の齡をとりめは是末也信抄の従
のまゝ也此を末とすはちをとりめは是乃の末也此の
ゆゑ乃とゆきぬおといふ何あるを一年とくして年次是く
ち業是乃四甲事は救り合せり此は是をとりめは是乃
末と同年とすはちをとりめは是乃の末也此は是乃
あよりしは原氏君のりをとりめは信抄の従乃びとくおうごへ来て
此は是乃とすは本根是乃秋の末也一之成一年とすはちをとりめ
の教を合きしは又いふにちひごしはハとく此一之成一年と

おていけお近が集れるハその又の年秋を越バるる頃一秋後一年
むかりもさつとばそのつひごふちお近を成りしるべしとバい
てうかくもづる一學にもあふべき一細書をおめらぐおふま
いとどおまきおまへらるるつるるりなど六條度新お造ら
てて始きての御書とてそすこと正月臨時客時お催る衆のけ
殿さうしひもも新造の取寄るあしとて大倉臨時客時お新
所もお依て此殿をうとふといつことおき記ふるより又はお
はのりよりおとことつる御も細流おまお書おめらるる
ゆゑことつとともおや此流新くいさく造るるおくる
る一胡蝶をお書すの墨つとらぎあきとん路つり

御返りおとけおちやとおびりるる花屋おこちおまやまやま
おこまの去年の秋を越したの書お申まの御方より紫上の御侍へ
く書すのそのとらるとまられを書す花ごうりお此はつへま
ゆゑおへく源氏おのくおひいお今その御年お花ごうりおお
くおは五りけお後ごようりかぶまとして花ごのくことおまや
の文お紫上より申まおなれおつし御お徳おの院のおうりお
ままお一年へお終るるいつか御年お花屋おつらハ何のよ
まおくしてきて一年おへお後のおまそのお返りつらべきもの
大うお徳おのくお年おめらるるおつらハ一書おめらるるべき
一書おめらるるお月五日六條院のる場のおまおて騎射競馬の時お

おとつあわしむ。

柏本巻

源氏忠四十八の正月より秋まで。是れ申す所なり。五十八を
十よりまゝに。いよひいよと。つと。意。其今年生れあり。

横笛巻

源氏忠四十九の春より秋までなり。

鈴虫巻 夕音巻

同日忠五十年。鈴虫。夜より八月まで。夕音。同日八月よ
り。是れまでなり。

佛法巻

同日忠五十一の春より秋まで。

まがろし巻

同日忠五十二の春より。年終。若まで。意。忠五十年。

雲隠巻

此巻名のとまて。何なり。その法。妙なり。一。是より。源氏
忠。此巻は。あひ。ふ。か。り。通。つ。り。年。立。を。意。忠。幼。巻。あ。て。五
年。終。る。也。自。是。巻。ふ。十。四。年。終。り。一。年。一。巻。と。意。忠。五
十。三。年。終。り。八。年。終。り。巻。ふ。り。の。り。一。巻。一。年。終。り。源。氏。忠。の。か。り。通。つ。り。
一。ハ。その。つ。ひ。づ。つ。と。は。り。一。巻。一。年。終。り。が。り。

白宮巻

とべし。お梅も花の傳といひてきよくおし。まじりて此人を
お梅も花といひし。つゝぬくおきとてさるゝか。此花は
ふよりてかりおききし。おきばててもつゝべし。またお梅も
けりて年立を言ふ。其一二年とせしむるも遠くその由は
思は中細くふなり給ふ。推本を記す。此花は梅おし。先より中
細くといふ。其一二年ハ梅花を記す。推本は前記を記す。

梅花記 字一

此巻よりをりり多浮梅もて十花記を字一十帖といふ。
その竹川をハ。お梅も花の傳といひてきよくおし。まじりて此人を
お梅も花といひし。つゝぬくおきとてさるゝか。此花は梅おし。先より中
細くといふ。其一二年ハ梅花を記す。推本は前記を記す。

十帖も字一のハ。お梅も花の傳といひてきよくおし。まじりて此人を
お梅も花といひし。つゝぬくおきとてさるゝか。此花は梅おし。先より中
細くといふ。其一二年ハ梅花を記す。推本は前記を記す。

とせし。葵はふ。源氏ふ。三葉は正月はうまできて。次乃柳
花も。その日ト年らりち。例あどきと思ふぞし。

推本卷 宇治二

加さる。是古三葉は二月より始まりて。其秋申御云ふほど終るハ
外川花は末にわたり。まて年うりて。古田の友までし。物ふ徳
抄の年立ち。橋は花ふ一。良はし。びわのあふげをそと。古三三
とせし。終る。夏は橋花ふり。まて。次く一年つ。遠くし。

何葉まれの花 宇治三

推本は末乃同年。同是古田は八月より。その年終。善までし。

早蕨花 宇治四

同是古五葉は。善なり。

宿本花 宇治五

此花ハ今上は女二葉の。花は。波出さる。ゆゑふ。う。ど。先は。不。ど。ハ。を。
ふ。前。つ。く。は。も。も。ま。て。け。ま。十。宮。本。に。あり。終。り。う。り。ハ。推。本。の。
末。徳。角。と。同。年。ふ。り。て。ま。ま。下。り。母。女。侍。う。せ。あ。ひ。その。年。ハ。
と。り。よ。り。ま。て。次。の。年。ハ。早。蕨。花。ふ。り。ま。り。ま。て。女。二。葉。侍。母。ハ。
服。を。つ。き。り。う。り。ハ。ま。た。お。ま。い。こ。ま。よ。り。お。蕨。の。次。へ。は。ぐ。く。し。お。わ。り。
け。あ。り。ま。て。ハ。女。二。葉。乃。は。う。へ。を。の。ま。書。は。を。此。取。り。り。し。て。宇。治。
の。娘。君。は。う。せ。終。ひ。し。ま。ま。又。申。是。は。う。波。二。條。院。の。う。へ。と。いつ。る。な。
ど。み。る。う。げ。ま。き。子。蕨。ふ。ま。り。る。ら。り。は。ぐ。き。り。る。ま。ぬ。し。ま。て。その。

年と書て、意馬、廿二早於二月、控ちぬを、大將ふなり、給ひ、その
来日月まで、はるり、然と、はけを、ハ、口の、交より、廿二の、交まで、但
一、花と、年と、之に、を、かの、女と、事、十四早於、女、母、女、所、の、う、せ、給、つ、る、年、次
も、て、早、蕨、卷、於、年、う、て、子、蕨、ハ、喜、な、る、と、此、是、ハ、その、交、り、と、志
て、は、ね、を、ら、子、蕨、より、つ、き、く、と、り、ぞ、今、定、免、と、一、身、還、ひ
て、く、母、女、所、の、う、せ、あ、つ、る、年、ハ、意、馬、廿、二、お、ま、て、大、御、云、た、給、り、但、ぎ、る
取、と、廿、七、早、於、と、そ、と、一、かの、年、と、之、と、て、い、ひ、く、誤、り、て、此、是、も、意
馬、の、數、を、誤、り、と、ぞ、と、此、母、女、所、の、う、せ、給、つ、る、子、蕨、の、年、と、せ、り、と、
と、ハ、い、も、控、さ、る、と、ぞ、と、何、と、ば、つ、さ、ひ、て、も、お、ぬ、べ、き、と、今、ハ、お、び、く、
細、流、を、ど、依、お、ふ、より、て、定、免、と、り、と、そ、と、も、又、い、は、れ、と、り、と、ぞ、と、何、と、ば、

けり、と、そ、人、心、の、う、へ、む、う、ふ、と、ぞ、と、べ、り、も、一、此、是、於、年、と、花、鳥
の、飯、り、よ、る、と、れ、と、決、り、は、を、ぞ、と、一、身、づ、き、み、く、と、意、馬、櫻、り、い
と、り、て、意、馬、廿、二、早、於、と、一、此、是、於、年、と、花、鳥、も、法、抄、も、一、お、び、ひ、お
い、と、れ、と、お、ま、と、何、と、ぞ、と、その、條、を、端、り、を、り、ハ、お、せ、く、と、何、り、く
お、ら、ぶ、と、一、き、と、い、は、む、と、一、お、つ、と、そ、と、り、と、何、お、ふ、と、ぞ、と、い、て、も、と、お
ゆ、一、ハ、お、ま、と、何、と、ぞ、と、

東御書 字法六

宿本を其末の同年、意馬廿二の秋に、

浮船書 字法七

同是也、廿二、四月より、三月に、末、う、に、毎、君、は、身、を、ま、む、と、せ、り、取

為雲女院も為雲を小かき世給し一昨七早給より
是は保氏も小五つの内このこと相つがの甚ふ成ふ事あり給ても
いつと給より小かき世給保氏も七早より十一まで給あひど
形は此後給十早給までのほど給べし其業を小湯儀妊と
廿三外業も小湯儀を生まりあつたは此の内時柳巻も此
にありと世給し一廿九日給事にあつた。

秋好中宮ハ柳巻も小湯儀もして伊勢も下らせ給し一昨十四日
のより一と一と相重也保氏も十早給より生れあつたり
みをつらふ母は島取よりあつた世給し一廿早内よりまわ
を給つた給合也妊も一廿の早給事給あつたりとど廿

一廿二早給かどしをそ給也小后ふしや世給つたは廿四の内時
つと給也。

明石中宮ハみをつら給也小生給と世給し松風也小三早給
なり給つたり一兄也藤末也小東宮上今あり給つた十一の内時
上の業も一廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿廿
小中宮もより一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と
一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と
の内時今定むる年迄小つた十二と十二と十二と十二と十二と
あつたりと一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と
は儀妊のより一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と

とく夕暮を此末より見しるハ遠くがどと〜。中々夕暮を乃
年ふ生まれあひても。宿本の船ぐむの年ハ元之早ふつ〜。但〜
ゆふ暮を小此末たる〜。加の大船は男女の海子〜。と
〜へわけて〜。ナ二人を〜。船は此末〜。生まれ給
〜。末を〜。てまいつ〜。ま〜。此末の海
子〜。系圖ふ〜。十二人の外も。後多く書れを〜。てま
〜。り〜。い〜。む。

浮舟、是も宿本の是のなる年の事ふ。ちむ〜。と〜。幻是の次乃
年。生まれ〜。り〜。中、是〜。ハ五つ〜。オット
是ハ二〜。は末、字橋ハ三〜。り〜。年形り。

